

200919001A

厚生労働科学研究費補助金

医療技術実用化総合研究事業

疾患別患者背景及び処方・診療実態データベースの構築に関する研究

平成 21 年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 永井 良三

平成 22 年 5 月

目次

| | | |
|------|---|-----|
| I. | 総括研究報告 | |
| | 疾患別患者背景及び処方・診療実態データベースの構築に関する研究----- | 1 |
| | 永井 良三 | |
| II. | 分担研究報告 | |
| 1. | 心臓カテーテルレポートシステムの改良に関する研究----- | 9 |
| | 岩田 洋、興梠 貴英、真鍋 一郎 | |
| | (資料) カテーテルレポートシステム改良・改修詳細資料 | |
| 2. | 二施設データの比較、他施設への導入検討----- | 47 |
| | 興梠 貴英、磯部 光章 | |
| 3. | 臨床疫学データベースシステムからのデータ抽出プログラムの実装----- | 51 |
| | 興梠 貴英、真鍋 一郎 | |
| | (資料) 新症例検索システム操作マニュアル、その他 | |
| 4. | 臨床疫学データベースを用いた臨床研究----- | 85 |
| | 岩田 洋、興梠 貴英 | |
| 5. | CDISC 標準を中心とした臨床試験電子化の現状と今後に関する調査研究----- | 93 |
| | 木内貴弘、石川洋一、大津 洋、原 量宏、古川裕之 | |
| 6. | Health Level Seven (HL7) と Clinical Data Interchange Standards Consortium (CDISC) | |
| | 標準との関連について----- | 101 |
| | 小出 大介 | |
| III. | 研究成果の刊行に関する一覧表----- | 109 |
| IV. | 研究成果の刊行物・別刷 ----- | 115 |

I.総括研究報告書

平成21年度厚生労働科学研究費補助金(医療技術実用化総合研究事業)

総括研究報告書

疾患別患者背景及び処方・診療実態データベースの構築に関する研究

主任研究者 永井 良三 東京大学医学部附属病院循環器内科教授

研究要旨

わが国においては臨床機関から医薬品、医療機器開発側に開発ニーズが十分伝わっていないことが速やかな医薬品・医療機器の開発を阻害している要因の一つとなっている。我々はこれまで循環器内科で用いるためのデータベースシステムを構築してきており、本研究は既存のシステムを基盤に、医薬品等の開発ニーズを抽出する上で必要な情報基盤を構築し、そのデータベースから低コスト・リアルタイムに医薬品・医療機器開発のニーズを抽出できるシステムを構築することを目的とする。また複数施設に展開し、臨床研究を行う基盤とすることも目的とする。

また、CDISC 標準を中心とした臨床試験電子化の現状と今後に関する海外調査研究と CDISC 標準による実際の臨床試験データ収集を実施した。CDISC 標準によるオンライン臨床試験データ入力の実用化を開始した。

分担研究者氏名・所属機関名・職名

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 永井 良三 | 東京大学医学部附属病院循環器内科教授 |
| 磯部 光章 | 東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科・循環制御内科学(循環制御内科) |
| 森田 啓行 | 東京大学医学部附属病院健康医科学創造講座特任准教授 |
| 真鍋 一郎 | 東京大学大学院医学系研究科・医療ナノテクノロジー人材養成ユニット・講師 |
| 岩田 洋 | 東京大学医学部附属病院助教 |
| 興梠 貴英 | 健康医科学創造講座特任助教 |
| 木内 貴弘 | 東京大学医学部附属病院・医療情報学教授 |
| 石川 洋一 | 国立成育医療センター・医療薬学(薬剤部)薬歴管理主任 |

| | |
|-------|-------------------------------|
| 大津 洋 | 東京大学大学院医学系研究科臨床試験データ管理学講座特任助教 |
| 小出 大介 | 東京大学大学院医学系研究科臨床疫学システム学講座特任准教授 |
| 原 量宏 | 香川大学附属病院・医療情報学(医療情報部)教授 |
| 古川 裕之 | 金沢大学附属病院・臨床薬理学(臨床試験管理センター)准教授 |

研究目的

わが国においては臨床機関から医薬品、医療機器開発側に開発ニーズが十分伝わっていないことが速やかな医薬品・医療機器の開発を阻害している要因の一つとなっている。一方で、医療現場においても IT 技術が用いられるようになってきており、臨床現場から情報をくみ上げやすい環境が整いつつある。ただし、現状では電子カルテシステム等の医療

情報システムは医事会計のためのシステムの延長として開発されており、必ずしも医学的に有用な知見が蓄積されているわけではない。そのため我々は循環器内科内で独自に情報を蓄積するシステムを構築してきた。数度のバージョンアップを経て、現在では臨床情報を入力するための症例入力システム、冠動脈造影検査・経皮的カテーテル治療データベースシステム、病院情報システムからの検査値、処方データがデータソースとなっている(図 1)。本研究においてはこのシステムを更に発展させて、臨床疫学の基盤となるデータベースシステムを構築し、新しい臨床知見と共に医薬品、医療機器の開発ニーズを抽出することを目的にしている。

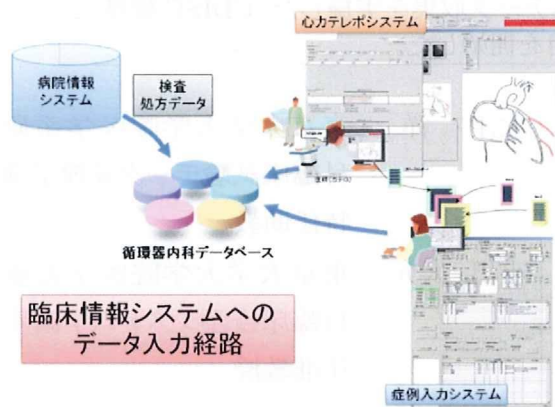


図 1

また、CDSIC 標準の研究目的は、海外を中心とした臨床試験の電子化に関する調査研究等を実施することによって、CDISC 標準の策定状況、臨床研究電子化の現状と今後の動向を把握・考察すること、及び実際に機能実装し、運用することによって日本における臨床研究電子化に役立てることにある。

研究方法

従来構築してきたデータベースシステムを基盤として、

1. 質の高いデータ入力のためのシステム改良

2. データベースからのデータ抽出ツールの実装

3. 複数施設へのカテレポシステムの展開とデータ収集

を行い、臨床疫学データベースの構築を行った。さらに今年度はそのデータベースを用いて、

4. 臨床疫学データベースを用いた臨床研究に着手した。

CDISC については、海外調査先を訪問・調査し、必要な情報の収集・交換を行った。

また、UMIN インターネット医学研究データセンターにおいて、CDISC 標準をサポートした実際の臨床試験データ収集を開始した。

研究結果

臨床疫学データベースについて

1. 質の高いデータ入力のためのシステム改良

臨床疫学においては、原則として日常診療で得られる情報を用いることになる。そのため、日常診療を阻害しないようにインターフェースなどを工夫する必要があり、またスムーズに情報を取得するためには院内の他システムの変更に併せて改良を加える必要がある。このため分担研究者の岩田、興梠、真鍋は実際に使用している医療スタッフの要求に応えるべくカテレポシステムに改良を加えた。さらに、今年度から東京医科歯科大学病院循環器内科において稼働を開始したが、ワークフローが異なるためにデータ入力方法に大きな相違があることが判明し、それに対応するような改修作業を行った。これらの改良により質の高いデータをスムーズに取得できるようになった。

2. データベースからのデータ抽出ツールの実装

昨年仕様を検討していたデータベースか

らのデータ抽出ツールを実装した。これにより、比較的詳細なデータを簡単に検索・抽出したり、用いている冠動脈ステント等をリアルタイムに簡単に集計できるようになった。

3. 他施設への展開・拡大

臨床疫学データベースは一施設のみだと施設固有のデータバイアスが入り込み解析結果から一般性が失われやすい。そのため解析結果に一般性を持たせるためには複数施設でデータベースを構築する必要がある。こうした目的のために平成 21 年 4 月より東京医科歯科大学病院循環器内科においても同じカテレポシステムを稼働させ、同一フォーマットでのデータ収集を開始した。さらに施設数拡大を検討した結果、日本赤十字社医療センターにおいて平成 22 年 4 月から同じカテレポシステムを稼働させることに同施設院長、循環器内科部長から同意が得られたため、導入に当たっての検討を行った。

4. 臨床疫学データベースを用いた臨床研究

我が国においても科学的根拠に基づいた医療(evidence based medicine, EBM)は臨床現場において浸透しつつあるが、EBM の根拠とされるものはその多くがランダム化比較試験である。そうした試験から統計学的には正しい結果が得られるが、試験実施に当たっては登録基準、除外基準を設けて患者集団全体からある特殊な集団のみを取り出して行うことが多い。そのため、日常臨床の中で実際に診療する患者については実質的には科学的根拠が得られないこともあり、実地臨床データを用いた解析/研究が重要であると考えられる。

第二年度においてはこれまで構築してきた臨床疫学データベースを用いて下記のテーマで臨床研究に着手し、そのいくつかについて

では国内外の学会で発表を行った。

- ・PCI 施行後の新規病変の危険因子の検討
- ・PCI 施行時の貧血、赤血球大球性が心血管系リスクに及ぼす影響の検討
- ・高齢者における低 BMI が PCI 施行後の予後に及ぼす影響の検討
- ・PCI 施行後の患者において Ca 拮抗薬とスタチンの併用が予後に及ぼす影響の検討

臨床疫学データベースを用いた研究は後向き観察研究の形をとるため、治療とアウトカムの因果関係については十分留意して解析を行った。

CDISC について

1. 全体の動向と電子カルテとの連携

CDISC 標準は、仕様の策定が進み、CDISC 標準群も全て正式版が出揃った。今後は仕様のバージョンアップもさることながら実際に使用し運用し、業務に役立ててゆくことが考えられる。

2. 医学研究支援システムでの CDSIC 標準運用開始

本年度の研究成果は昨年度の試験実装成果を更に進め実際の臨床研究で実用可能なレベルでのサーバー側(UMIN INDICE 側)への CDSIC 標準機能の実装と医療機関から電子的に送付されたデータの取り込みを行っている。なおこの臨床研究において医療機関側(福島県立医科大学)の病院情報システムと連携した CDISC 標準対応の臨床研究データ出力システム(クライアント側)の実装作業は医療機関側が行った。

3. 香川大学瀬戸内圏研究センターでの電子カルテよりのデータを EDC へ取り込み実験

香川大学瀬戸内圏研究センターでも電子

カルテのデータをCDSICに変換してEDCへ
伝送する実装実験が行われた。

模擬研究名は「本態性高血圧症に対する
AKP001の第Ⅲ相二重盲検比較試験」であり、
この実験の結論は「医師の情報入力機会を考
慮すると電子カルテからの治験情報入力は現
実的と言える状況になりつつある」となってい
る。

考察

臨床疫学データベースの構築に関しては、
カテレポ導入施設数が増加し、施設バイアス
の低減を図ることができると予想される。ま
た構築されたデータベースを用いて臨床研
究を開始することができた。

またCDISCについてはUMINがCDISC標
準によるデータ収集機能を通常サービス
として提供することによってCDSIC標準を
利活用したアカデミックな臨床研究が実
際に実施可能となった。これによって、臨
床研究（特に大規模なもの）が飛躍的に推
進されるとともに、既存の病院情報システ
ム上に有るデータの利活用が進むと予想
される。そして日本における臨床研究電子
化のための商用製品の開発・運用、更には
日本における治験の電子化を大きく推進
すると予想される。

結論

臨床疫学データベースの構築

- 1) 東大病院循環器内科内ではすでに3年
以上のデータ蓄積があり、そのデータを
解析することにより臨床研究を開始するこ
とができた。
- 2) 複数施設において同一フォーマットのデ
ータが収集されるようになり、将来的にバ
イアスの少ない臨床疫学データベースを
構築する基礎が準備できた。

- 3) データ抽出プログラムを実装することによ
りデータの有効活用が可能となり、またス
テントについてはリアルタイムで集計が行
えるようになった。

CDISCについて

- 1) CDISC 標準の策定は、全ての標準群に
正式版が制定された。今後もアップデート
の作業は継続して行われてゆく。
- 2) CDSIC 標準の実務運用開始については、
日本が先行した。実際のサービスでの運
用による経験とノウハウの蓄積は、CDISC
標準の今後の実装上非常に有益である。
標準化進展によって、臨床試験・疫学研
究、治験の電子化と合理化が進展すると
思われる。

健康危険情報

特記すべき事無し

研究発表

1.論文発表

特になし

2.学会発表

第74回日本循環器学会総会(2010/3/5-7、
於国立京都国際会館)

澤城 大悟、他「Lower Body Mass Index
Significantly Predicts Higher Mortality
and Adverse Events in Elderly Patients
after Percutaneous Coronary
Intervention」

田中 悌史、他「Combined Therapy of
Calcium-channel Blocker and Statin
Lead Favorable Prognosis in Patients
after Percutaneous Coronary
Intervention」

知的財産権の出願・登録状況

1.特許取得

特になし

2.実用新案登録

特になし

3.その他

特になし

II.分担研究者報告書

平成21年度厚生労働科学研究費補助金(医療技術実用化総合研究事業)

分担研究報告書

心臓カテーテルレポートシステムの改良に関する研究

分担研究者 東京大学大学院医学系研究科循環器内科学助教 岩田 洋

東京大学大学院医学系研究科健康医科学創造講座特任助教 興梠 貴英

東京大学大学院医学系研究科循環器内科学 真鍋 一郎

研究要旨

循環器内科においては虚血性心疾患患者の検査・治療が臨床業務的に最も比重が大きい。また近年はほとんどの虚血性心疾患患者は心臓カテーテル検査を受け、治療も同様に経皮カテーテル的に行われる。なおかつ治療に用いるデバイスは日進月歩で進化を遂げつつある。そのため日常臨床で発生する情報は膨大であり、しかもそうした情報は次々に変化しつつある。しかし、そうしたデータを系統的に蓄積し、後に客観的に解析することを可能にしたシステムは市販されていない。本研究は、これまで東大病院循環器内科で構築してきた心臓カテーテルレポートシステムを改良し、後に容易にデータ解析できるようなシステムを構築することを目的とした研究であり、今年度もこれまでは不十分であった点や日常臨床環境の変化に合わせるためにシステムの改良を行った。

さらに今年度は他施設(東京医科歯科大学病院循環器内科)において当心臓カテーテルレポートシステムを導入したが、検査・治療のワークフローが東大とは大きく異なる部分があり、そうした差異に対応するべくシステムに改修を加えた。

A. 研究目的

これまでも種々の心臓カテーテル検査・治療のレポートシステムが開発されており、一部は市販されたり、もしくは各医療機関において Access やファイルメカ等の市販データベースソフトを用いて独自に構築されたりしている。診療用のレポート作成としては十分な機能を有していることが多いが、後にデータを解析することが考慮されていないために、蓄積したデータを有効活用しづらかったり、また動画情報とテキスト・数値情報が連動していないために効率よく解析しづらかったりする場合が多い。我々がこれまで構築してきた心臓カテーテルレポートシステム(カテレポシステム)においては、動画とテキスト・数値情報の連動およ

び解析可能な形でのデータ格納が可能な形でシステムを構築してきた。

しかし現場で用いている医療スタッフからは下記のようなシステム改良要求があり解決する必要があった。

- ・カテーテルレポートシステムメイン画面上でのカテ施行日登録・修正機能追加
- ・患者検索画面における操作性向上
- ・患者情報登録画面上での情報修正機能追加
- ・PCI 試行部位入力画面のサイズ変更
- ・カテーテル検査毎表示画面における操作性向上
- ・冠動脈形態情報入力のさらなる充実
- ・シャント率計算式の修正
- ・ユーザによるカテーテル検査データ削除機

能の追加

- ・編集画面起動中画面の挙動修正

さらに平成 21 年 4 月に導入した東京医科歯科大学病院循環器内科においては PCI 施行後の再検査で再狭窄が発見された際に、検査施行医師の判断でそのまま PCI 施行に移行することがあり、これが必ずカンファランスを通す東京大学とワークフローが大きく異なる部分であり、その違いを反映させた形でカテーテルレポートシステムに改修を加える必要があった。

上記のごとく、本研究項目においてはより質の良いデータを効率よく入力・蓄積するための改良をどのように行うか、ということ进行调查し、実施することが目的である。

B.研究方法

研究目的に述べられているような課題に対して、さまざまな事項を検討してシステムの改良・改修を行った。

C.研究結果

- ・カテーテルレポートシステムメイン画面上でのカテ施行日登録・修正機能追加
- ・患者検索画面における操作性向上
- ・患者情報登録画面上での情報修正機能追加
- ・PCI 試行部位入力画面のサイズ変更
- ・カテーテル検査毎表示画面における操作性向上
- ・冠動脈形態情報入力のさらなる充実
- ・シャント率計算式の修正
- ・ユーザによるカテーテル検査データ削除機能の追加
- ・編集画面起動中画面の挙動修正
- ・医科歯科ワークフロー対応のための改修

上記いずれの項目についても詳細に仕様を検討した上で、約 50,000 行に及ぶソースコード

を吟味し、改良・改修作業を行った。また作業後にエラーが出ないことを十分にテストしてシステム使用に際して問題が起こらないことも確認した。

詳細はカテーテルレポートシステム改良・改修詳細資料に記述した。

D.考察

臨床疫学データベースは日常臨床データの蓄積が基本である。しかし、ただ漫然と収集しているだけでは質の高いデータは得られず、質の高いデータが確実に得られるような仕掛けを作ることが必要である。また日常臨床環境の変化に対応して、システムも柔軟に改良していく必要がある。

E.結論

今年度のカテレポートシステム改良により、臨床疫学データベース構築の上で重要な正確なデータ取得が可能となった。

またワークフローの異なる他施設においてもスムーズにデータ取得が可能となった。

F.健康危険情報

総括研究報告書に一括記載

G.研究発表

1.論文発表

特になし

2.学会発表

特になし

H.知的財産権の出願・登録状況

1.特許取得

特になし

2.実用新案登録

特になし

3.その他
特になし

カテーテルレポートシステム

改良・改修詳細資料

| | | | |
|-------|-------|--------------------|------------|
| 題名 | カテ日登録 | | |
| システム名 | カテレポ | プログラム名 (モジュール名) | カテデータメイン画面 |

【変更理由】

- ・ 現状、カテ日に関しては登録時の日付を自動的に取得して登録している。その場合、緊急カテなどについては後日登録するケースもあるが、登録日がカテ日になってしまう。このデータだと、診療端末からカテレポートを参照しようとしてもエラーとして処理されてしまう(日付不一致の為)。
- ・ 既に登録されているデータに関してはそのまま構わないが、新規カテ登録に関しては、カテ施行日を指定できるようにして欲しい。

【変更仕様】

1 概要

4. カテ日指定

- ・ 参照専用のテキストボックスではなく、条件により入力ができるオブジェクトとする。

5.

2 画面仕様

6. カテ日入力画面

- ・ 画面構成については変更なし。カテ日付領域のみ変更する。

| -患者基本情報- | | | | | | |
|------------------|------|-----------|--------|------------|----|----|
| カテ日時 | シネ番号 | ID | 氏名 | 生年月日 | 年齢 | 性別 |
| 2009/12/15 15:28 | | 192834810 | テスト患者4 | 1960/03/03 | 49 | F |

新規作成時のみカテ日時の領域を編集可能とする。それ以外は参照のみ。

3 チェック条件

- ・ 新規カテ作成時→カテ日時の領域を編集可能とし、可能であればカレンダー機能を利用する
- ・ カテ編集時→カテ日時に関しては編集不可能とし、表示のみ実施する

4 帳票仕様

5 ファイル仕様

1. データベーステーブル

本改修サポートに伴う既存ファイルの変更はない。データとしては、新規カテ登録時にKATEREPO_BASIC_SEKOU_DATEが

確実に対応すること。登録時にSYSDATEで無条件にデータが書き換えられないように確認する。

6 運用

7 環境

8 取り込み時注意事項

9 関連システム

10 性能設計

11 その他

※ 今回の改修に伴い、日付を基本としたデータに関して見直しを行い、今回の改修が確実に適用されて日付の差異が出ないように実施する。対象としては、PCISITE_INFO.PCI_DAT、FOLLOWUP_INFO.FOLLOWUP_DATE。それ以外もあるが、これらを参照して登録している事を確認すれば影響はないと思われる。

※ 編集画面表示時に、検索性施行日時に自動的にSYSTEMDATEを代入しているの、その部分を変更しないと対応できない。それ以外にも自動的に日付を取得している箇所が影響するかどうかの調査が必要。

懸念事項

1. 新規カテ作成時にカテ日付を変更する前にCDを取り込むとDICOMフォルダがシステム日付で作成されてしまう。→ 現状の仕様では回避策無。運用フローで対応してもらうよう調整検討。
2. 新規FollowUp作成時にカテ日付を変更する前にFollowUp画面を開くとFollowUp日がシステム日付になってしまう。(独自に日付データを保持する為)→FollowUpデータ登録時にカテ日を参照して、不一致であればカテ日を優先するロジックではどうか？(一度FollowUp画面を閉じてからカテ日を変更して、再度FollowUp画面を開くとどうなる?)

ソース調査

※ frmPtMain

◇ 新規登録時のみ、カテ日領域編集を可能とする。但し、現在のテキストボックスは日付+時刻に分かれているので、このままだと入力操作に支障をきたす。入力用に新たなテキストボックスを追加して制御する方が適切。表示非表示の判断は画面初期化

(FORM_LOAD)時に実行する。

- ◇ カテ日編集後に領域から離れる場合にデータの検証を行い、不正であればその旨をメッセージボックスにて表示する。その後、領域に戻り正しい入力を行ってもらおう。入力形式は、'YYYY/MM/DD HH:MI'とする。正しいデータだと判断できた場合のみ、現在の日付と時刻テキストボックスへ値を分割した上で代入する。
- ◇ 保存処理(blnSave)では特に変更なし。このデータを元に他データとの連携を取ればカテ日情報の保存は可能と思われる。

<システム日付使用調査>

□検索条件 "format(Date,"

frmPtInfoReg. frm (454, 40) : gobjPtInfo. gstrSekouDate = format(Date, "YYYY/MM/DD")

->このロジック (pblnForward:新規患者登録後無条件診断データ新規作成) が不要になるかもしれない。詳細詰める必要あり。

SBCKCatheBasic. cls (318, 29) : mstrSekouDate = format(Date, "YYYY/MM/DD")

->このロジックで、入力モード用のテキストボックスにも初期データを代入する。ただ、このロジックが使われているかは不明。

SBFKaterepoList. frm (817, 93) : SQLLine = KaterepoSQL & Trim\$(gobjPtInfo. gstrPtInfoNo) & "" & KaterepoWhere & format(Date, "YYYY/MM/DD") & ""

->影響なし(当日データ二重登録防止)

SBFKaterepoList. frm (854, 40) : gobjPtInfo. gstrSekouDate = format(Date, "YYYY/MM/DD")

->影響なし(初期データに関しては当日日付)。ただし、入力用テキストボックスにも初期設定を行う必要あり。

SBFPtMain. frm (2648, 43) : '' varDate = DateAdd("m", intFuKikan, format(Date, "YYYY/MM/DD"))

->影響なし(コメントアウト済)

SBFPtMain. frm (2700, 26) : txtShikouDate.Text = format(Date, "YYYY/MM/DD")

->影響なし(初期データに関しては当日日付)。ただし、入力用テキストボックスにも初期設定を行う必要あり。

UserKateRepoKakuninType1a_1. ctl (3198, 61) : ' gobjPtInfo. gstrKateInfoNo & "¥" & format(Date, "yyyymmdd") & "¥"

->影響なし(コメントアウト済)

UserKateRepoKakuninType1_2. ctl (2567, 46) : strKateInfo & "¥" & format(Date, "yyyymmdd") & "¥"

->現在のカテ日取得・設定?

UserKateRepoKakuninType2_2. ctl (756, 46) : strKateInfo & "¥" & format(Date, "yyyymmdd") & "¥"

->現在のカテ日取得・設定?

SBUPCISiteItem. ctl (4161, 32) : txtFollowUpDate.Text = Format(Date, "YYYY/MM/DD")

->FollowUpデータに対して、未入力の場合には当日日付を設定。

SBUPCISiteItem. ctl (5197, 28) : txtDate.Text = Format(Date, "YYYY/MM/DD")

SBUPCISiteItem. ctl (5213, 32) : txtDate.Text = Format(Date, "YYYY/MM/DD")

SBUPCISiteItem.ctl (5219, 40) :txtFollowUpDate.Text = Format(Date, "YYYY/MM/DD")

=>pVisible関数内で日付データがない場合には初期化している。この値はSekou_Date、Sekou_Timeを使用しないと問題あり。

□検索条件 "format\$(Date,"

EdaOCX#CLogFile.cls (105, 39) :mstrFileName = mstrFileName & Format\$(Date, "yyyymmdd") & ".log"

EdaOCX#CLogFile.cls (107, 45) :mstrFileName = mstrFileName & "¥" & Format\$(Date, "yyyymmdd") & ".log"

PCISite#CLogFile.cls (105, 39) :mstrFileName = mstrFileName & Format\$(Date, "yyyymmdd") & ".log"

PCISite#CLogFile.cls (107, 45) :mstrFileName = mstrFileName & "¥" & Format\$(Date, "yyyymmdd") & ".log"

Cathe#CLogFile.cls (105, 39) :mstrFileName = mstrFileName & format\$(Date, "yyyymmdd") & ".log"

Cathe#CLogFile.cls (107, 45) :mstrFileName = mstrFileName & "¥" & format\$(Date, "yyyymmdd") & ".log"

=>ログファイル作成なので影響なし

Cathe#SBFKateReport.frm (2206, 57) :gobjPCISiteData(intCnt).gstrStentDate = format\$(Date, "YYYY/MM/DD")

->PCISite画面データ取得なので、ここは現在のカテ日或いはPCI_DATEを取得

Cathe#SBFPtList.frm (1799, 22) :strNowDate = format\$(Date\$, "YYYY/MM/DD")

->過去一週間データ取得用の日付取得。影響なし。

Cathe#standerd.bas (429, 18) :pstrReName = format\$(Date, "YYYYMMDD") & _

CDROM2HDD#standerd.bas (314, 18) :pstrReName = Format\$(Date, "YYYYMMDD") & _

=>ファイル名リネーム。画像ファイルやXMLファイルだとすると、特に変更する必要なし。

Cathe#standerd.bas (581, 19) :strDate = format\$(Date, "yyyymmdd")

->Saveパス作成時、引数に日付データが渡されていなければシステム日付取得。影響度不明。

Cathe#standerd.bas (618, 19) :strDate = format\$(Date, "yyyymmdd")

->DICOMSaveパス作成時、引数に日付データが渡されていなければシステム日付取得。影響度不明。

Cathe#standerd.bas (693, 19) :pstrGetTime = format\$(Date, "YYYYMMDD") & format\$(Time, "HHMMSS") & format\$(systemDate.wMilliseconds, "000")

CDROM2HDD#standerd.bas (474, 19) :pstrGetTime = Format\$(Date, "YYYYMMDD") & Format\$(Time, "HHMMSS") & Format\$(systemDate.wMilliseconds, "000")

=>DB保存用現在の日時設定で使用。影響なし。

Cathe#UserKateRepoKakuninType2_2.ctl (980, 54) :strFileName = IMAGE_TMP_FOLDER & "IMAGE" & "_" & format\$(Date, "YYYYMMDD") & format\$(Time, "HHMMSS") & ".jpg"

->イメージファイル名作成時使用。カテ日時とは特に連結しなくても影響はなし。

CDROM2HDD#standerd.bas (401, 20) : strDate = Format\$(Date, "yyyymmdd")

->影響なし(コメントアウト済)

| | | | |
|---|-------------|--------------------|--------|
| 題名 | 患者検索機能エンハンス | | |
| システム名 | カテレポ | プログラム名 (モジュール名) | 患者検索画面 |
| 【変更理由】 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 患者検索画面表示後、必ず検索条件を指定して、患者検索を実行するが、検索条件を指定する手間を簡略化したい。基本的には過去1週間分をデフォルトで表示して欲しい。 | | | |
| 【変更仕様】 | | | |
| 5概要 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> デフォルトで表示するかどうかは、KATEREPO.INIにて指定可能とする。 デフォルト表示を指定された場合には、患者検索画面表示時に過去1週間の検査データを事前に検索して、結果を同時に表示する。 | | | |

6 画面仕様

7.

患者選択

ログインユーザ: 01

新規患者 メニューへ戻る

患者毎表示 カテテル検査毎表示

検索条件(AND検索)

患者ID ※前方一致

氏名 ※部分一致

ふりがな ※部分一致

生年月日

性別 男 女

カテテル検査日

日付指定 指定なし

2009 年 12 月 15 日

2009 年 12 月 15 日

本日 過去一週間

Diagnosis

Procedures

第一術者

検索 条件クリア

検索結果 0 件 見つかりました

検索結果印刷 完成済レポート印刷

| 患者ID | 患者氏名 | かな氏名 | 生年月日 | 年齢 | 性別 |
|------|------|------|------|----|----|
|------|------|------|------|----|----|

未承認レポート一覧

| Reporter | レポート | 患者氏名 | カテ日 | CineNo. |
|----------|------|--------|------------|---------|
| | 未 | テスト患者4 | 2009/12/15 | |

1. 過去1週間分の検査データを検索、通常通りの結果表示としてデータを反映させる

8.

7 チェック条件

- 画面ロード時に実行する為、他の画面遷移で誤動作がないかどうかを確認する

8 帳票仕様

5 ファイル仕様

- KATEREPO.INI
新たに、デフォルト患者検索実行の有無を選択する項目を追加する

6 運用

7 環境

8 取り込み時注意事項

9 関連システム

10 性能設計

11 その他

※ FrmPtList. Loadでの追加内容

- ◇ KATEREPO. INIの確認
- ◇ 過去一週間フラグの設定
- ◇ blnSearchPatients () 実行 (pGetListData (), pSetList () の実行が含まれている)
- ◇ 失敗した場合には無視してそのまま画面表示 (デフォルトで設定していない状態と同じ初期画面)